

<http://www.suidou.co.jp/update.htm>

■アート下水道

「アート下水道」プロジェクト

異分野コラボで化学反応

日水コン

野村会長と女子美大生が対談

下水道展 19 横浜で作品展示

日水コンは、創造力豊かなコンサルタントを目指し「アート下水道」プロジェクトに挑戦している。その一環で、女子美術大学と連携し、8月6日からパシフィコ横浜で開催される「下水道展 19 横浜」で「アート下水道」に関わる作品の展示を企画する。

6月21日には、同大学相模原キャンパスで、「アート下水道」プロジェクトに参加する女子学生と同社の野村喜一会長との対談を実施。意見交換を通じて、関係者の感情（感性）に刺激を与え、制作する作品に役に立ててもらおうとともに、プロジェクトの本質を掘り下げることを目的としたもの。対談前には関係者が制作段階の作品を見学。

「アート下水道」プロジェクトは、日水コンの「下水道業界に風穴を開けたい」という思いからスタートした。ルネッサンス期に芸術、建築、解剖学、数学、天文学、気象学、土木工学など複数の分野で業績を残したレオナルド・ダ・ヴィンチのような社員を育成し、複雑化する社会の中で課題を解決するための創造性あふれるアイデアをゼロから生み出していくコンサルタントを目指していきたいと考えている。

対談では①会長メッセージ「感情と思考」②「自由と不自由」③「理性と欲求」の3つのテーマについて野村会長と女子学生が意見をぶつけ合った。『自由と不自由』については、アートと向き合う学生に対して、自由のなかでの制作活動と約束ごとに縛られた不自由の中での制作活動に対しての考えについて聞いた。「無制限の自由は自由と感しない。制約があるから自由を感じる」「今回、制約の中で創作活動できたことは将来就職を希望する上でいい経験になった」などの意見があった。『理性と欲求』について野村会長の「欲求が先にある」という考えに対して、「理性の道を歩んでいる時に欲求が生まれてくる」と意見を述べる学生がいた。

澁谷克彦・同大学芸術学部デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻教授は「美しさのモチーフとして考えられなかったもの（下水道）を何とかしないといけないという義務感が美大生に化学反応を与えるのではという狙いがあったが、実際にそれが起こっている。ありがたい機会をいただいた。小さな化学反応ではなく、この取り組みがいろいろな人に知っ

てもらえるように広げていきたい」とプロジェクトの意義について語った。また、大森悟・同大学同部美術学科洋画専攻教授は「下水道に限らず、社会インフラに対しての見え方、理解度はまだまだ足りていない。暮らしのなかでその恩恵を受けていながら、当事者意識が薄い。アートは想定できないことを与える可能性を秘めており、それは、制度や法を変えることもありえる。」と述べた。

野村会長は「高い視点での対話で大変有意義だった。様々な意見があったが、おおむね合意点は見つかったと思っている。私の考えと逆の意見もあり考えさせられた」と感想を語った。